

日吉台地下壕保存の会

会 報

第16号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込(口座番号)横浜2-62997

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



日吉の地下壕内に残されている
トロッキの線路の枕木の跡

目 次	頁
○あいさつ	1
○運営委員会報告	2
○日吉台地下壕問題 調査団報告	2
○1991年度活動報告	3
○1991年度決算報告書	4
○1991年度決算報告 説明書	5
○1992年度活動方針	6
1992年度予算	7
○第4回総会アピール	8
○1992年度保存の会 運営委員・会計監査	8
○会費納入のお願い	8
○編集後記	8

あいさつ

永戸 多喜雄

地下壕保存の会は、去る四月一八日に行われた第4回総会の議事が終了した瞬間から、新しい年度の活動に入り、刻一刻と目標に接近しつつあります。この生命感が溢れる運動を保証しているものは何か。それは人間が生み出した愚かで罪深い戦争、直接的には太平洋戦争の現実を闇に葬ることを拒み続け、あくまでも平和にこだわるうとする強靱な意志の結びつき意外の何ものでもないでしょう。莫大なブルトニウム貯蔵を可能にする「科学技術の進歩」も、地球の危機を早める現象的な「経済大国」も、太平洋戦争がもたらした地獄図を消し去ることは出来ません。

おのおのかかわりの深い日吉の丘に平和の道標を、との願いを共にする仲間と語らって日吉台地下壕保存の会を起こしてから三年、力のおよばなかったことには深く反省しながら、平和へのこだわりをますます強めるべく、老躯に鞭打って今後とも会員の皆さんと共に歩み続けたいと存じます。

昭和天皇陛下御即位六十年
日誌 三月二十六日

場所 慶應義塾高校
第一会議室

報告事項

事務局長より

一、会員数 四九〇名

脱退・転移先不明・転勤
退職などで欠けた人数：
二二名

二年間会費未納者：
三一名

二、三月一四日：日吉台小学
校教職員・PTAが地下

壕見学。参加三〇名。

三、三月二四日：国会議員団
の日吉台地下壕調査の打
ち合せ。

議事

一、第四回総会について

日時 四月一八日

午後二時～五時

イベント 映画上映

「戦争と青春」

場所 藤山記念館

大会議室

総会次第、役員候補、

役割分担

二、国会議員団の地下壕調査
について

* 四月一四日（火）

午後一時

* 藤山記念館中会議室集合

参加予定者約三〇名。

* 調査後、市や県に保存の
ための要請をする。

三、会報第一六号の発送事務

日土ロム口地下壕

問題調査員団

報出口

去る四月一四日（火）に、

日吉台地下壕保存の会をはじめとする市民団体など九団体
によって、日吉台地下壕問題
調査団が結成され、地下壕の
調査と横浜市長及び神奈川県

知事に対して、日吉台地下壕
の整備保存の要請をしました。

取材にきたマスコミは、テ

レビ局では、テレビ朝日、日

本テレビ、NHK、TBS、

TVKなど五局、新聞では朝

日、毎日、読売、産経、東京

神奈川、統一日報社、社会新

報社など八社でした。

午後二時より慶應義塾の藤
山記念館で、代表の挨拶と保
存会の事務局長の地下壕の話
の後、地下壕に入り、約一時
間見て回りました。

その後、二手に分かれて市
庁と県庁を訪れ、市長及び知
事への要請書を渡し、地下壕
の整備保存の要請をしました。

市は広報課長が出て、「日

吉台地下壕利用策定計画調査

の報告書のことは知っている

が、窓口をどこにするか決ま

っていない。上部に伝えて検

討し、後日返事をしたい」と

のことでした。県は知事秘書

の方が出て、「横浜市と連絡

を取り合って検討したい」と

のことでした。要請後、県庁

の記者クラブで記者会見をし

ました。

以上の一連の様子は、テレ

ビやラジオでは夕方のニュー

スで、新聞では翌日の朝刊で

報道されました。

非常に多くの人々が、この

ニュースを聴いたためか、子

供達が地下壕に入りに来たり、

電話をかけてきたりして、地
下壕の入口の方に大変ご迷惑
をおかけしてしまいました。
それで当分の間、日吉台地下
壕の見学会を遠慮することに
致します。しかし他の地下壕
の見学会をやる予定です。
八月上旬に、温泉に一泊し
て松代大本営の地下壕の見学
を予定しています。

第四回 松山△△△報出口

去る四月一八日（土）に第

四回総会が開催され、約五〇

名の出席者によって議案はす

べて順調に承認されました。

地下壕の見学について意見

が出され、今後更に慎重に見

学会をやらねばならないこと

また早急に別の出入口を確保

する必要性を痛感しました。

そのためには、市や県に強く

働きかけていかなければなり

ませんので、今後とも宜しく

御支援の程をお願いします。

総会後に、上映された映画

「戦争と青春」は、大変好評

でした。

1991年度活動報告

会結成から早くも3年が過ぎました。この間、世界は目まぐるしく変化しました。日本では、PKOに自衛隊を参加させるかどうかが国会で議論されています。

私たちの運動にも関係し気になるところですが、それ故、私たちの運動が益々重要な意味を持ってきているのではないのでしょうか。

1991年度も、活動報告書にもありますように、様々な活動をして参りました。これも会員の方々の御支援と御協力のお陰と厚く感謝申し上げます。

会員の数は、この1年間で150名も増え、現在約490名となりました。会報も、第11号から第16号まで6回、順調に発行することが出来ました。会員の方々から地下壕見学会の感想文などが沢山寄せられ、毎号8ページとなりました。運営委員会は1回、幹事会は12回それぞれ開催され、保存の会の核として活動してきました。保存の会の具体的活動として全会員を対象とした行事としては、渡辺氏の「謀略秘密基地・登戸研究所の謎を追う」と田中氏の「なぜ日本は太平洋戦争に突入していったか」の2つの講演会、八王子市高尾の地下壕と日吉台地下壕の2つの見学会を行いました。地下壕の見学会は、地元小中学校PTA・教職員、市・県の小中高の教職員の団体、社会教育団体などからの申込が多く、全部で16回行いました。91年度は90年度にもまして日吉台地下壕に対する関心は高く、毎回定員の何倍かの申込がありました。見学の感想文では、地下壕を早く整備保存し、多くの人々が見学できるようにして欲しいという声が、多く寄せられています。

マスコミ関係では、例年同様この1年間しばしば取り上げられました。読売新聞、神奈川新聞、東京新聞、NHKテレビ、TBSテレビ、テレビ東京、東急ケーブルテレビなどで報道されました。

調査活動では、地下壕内部を幹事によって2回調査しました。また、聞き取り調査も何回か行い、新しい事実も出てきました。地下壕に関係した団体とかなり交流が出来るようになり、保存運動をすすめる上でいろいろ参考になる話を聞くことが出来ました。

地下壕の保存については、今年の4月14日に日吉台地下壕保存の会をはじめ9団体の参加による「日吉台地下壕問題調査団」が組織され、地下壕の見学・調査を行いました。その足で県庁と市庁を訪れ、県知事と横浜市長に地下壕の整備保存の要請書を渡し、県庁で記者会見をして、保存の意義と保存の具体的な方法について述べました。県当局は「横浜市と相談して、鋭意、保存方法を検討していきたい」とのことでした。

この日の一連の活動は、当日の午後6時のNHK、日本テレビ、TV朝日、TBS、TVKなどのテレビのニュース、翌日の朝日、神奈川、毎日、読売、産経、東京などの朝刊で報道されました。

県当局は関心を持っているようで、とりあえず県庁の国際交流課が窓口になっています。保存にむかって少しですが光明が見えてきました。目的達成まで会員の方々と共に頑張っていきたいと思えます。ご支援の程を宜しくお願い致します。

これで1991年度の活動報告案の説明を終わります。

1991年度決算報告書

(単位は円)

	1990年度決算 1990.3.23-1991.4.2	1991年度予算 1991.4.3-1992.3.31	1991年度決算 1991.4.3-1992.3.31
収入の部			
会費	337500	284000	480500
カンパ	19000	0	50845
利息	11163	0	0
事業益	0	0	115840
繰越金	186303	410439	410439
合 計	553966	694439	1057624
支出の部			
会議費	1280	10000	5200
事務費	26952	40000	47919
印刷費	32475	450000	72996
通信費	72999	150000	139264
資料費	3860	10000	0
謝 礼	5961	20000	54361
予備費	0	14439	33680
合 計	143527	694439	353420
差引残高 計	410439	0	704204

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1992年4月3日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

1991年度決算報告説明書

収入の部
会費

		1991年度		1990年度	
	口数	人数	合計	人数	合計
500円	1	5	2500円	3	1500円
1000円	1	310	310000円	218	218000円
1000円	2	50	100000円	26	52000円
1000円	3	5	15000円	12	36000円
1000円	4	2	8000円	4	20000円
1000円	5	5	25000円		
1000円	10			1	10000円
2000円	10	1	20000円		
合計		378	480500円	264	337500円

カンパ

1991年度

10000円*2口=20000円

30000円*1口=30000円

その他 = 845円

合計

50845円

事業益

(セミナー・見学会などの参加費)

500円*37名=18500円

300円*18名=5400円

(資料売上金)

91940円

合計

115840円

支出の部

会議費 セミナーの講師との懇談会

事務費 事務用品、封筒、など

印刷費 会報、総会案内、見学案内などの印刷

通信費 会報の郵送、幹事会の通知など

謝礼 講師の謝礼、調査・見学の時の謝礼など

予備費 関係団体の集会への派遣費

[補足説明] 収入の部の事業益は、セミナーや見学会などの参加費と、地下壕関係の資料等の売上げによるものである。支出の部で印刷費の決算が、予算より著しく少ないのは、パンフレットの発行(40万円)が出来なかったためである。

1992年度活動方針(案)

保存の会が結成されて4年目を迎えました。91年度はソビエト連邦が崩壊し、90年度に引続き激動の年でありました。また昨年は真珠湾攻撃から50周年にあたり、改めて太平洋戦争の意味が問われました。中国人・朝鮮人の強制連行や従軍慰安婦の問題もクローズアップされてきました。それらの人達への戦後補償が問題となり、現に裁判も起きています。国会でもこれらの問題が取り上げられてはいますが、これとは裏腹に、国会では自衛隊の海外派遣を可能にするPKO法案が提出されようとしています。まだ先の戦争の後始末さえしていないのにと、疑問を感じざるを得ません。日本が、太平洋戦争に対して、厳しく反省し、きちんと後始末をつけた上でなければ、如何なる貢献も世界の信頼は得られないでしょう。その意味においても、私たちの運動の重要性が痛感させられます。

太平洋戦争が終わって46年たって、戦争の遺跡が殆ど消え、戦争体験者も少なくなり、戦争の実相が風化しつつあります。しかし、私たちは風化させるわけには参りません。平和な世界を築き維持していくためには、戦争というものの本質と実相を正視し、戦争を知らない世代に正しく伝えて行かなければなりません。そのために、私たちは91年度に引続き調査を活発に行い、地下壕の整備と保存、戦争と平和を考える場として公開する運動をすすめ、多くの人々にこの地下壕から見える太平洋戦争の真実と実相を知って頂き、後世に伝えて行かなければなりません。

今後の具体的活動としては、

1. 調査活動を活発に行う。
2. 見学会・講演会など様々な催しを活発に行う。
3. 会報を発行し、パンフレットを作り、PR活動を活発にして会員を増やし、活動の輪を広げる。
4. 全国の関係諸団体との交流を深め、情報交換を活発にする。
5. 市や県場合によっては国の行政当局に働きかけ、保存の要請または陳情、請願、署名運動などを行う。

今年度は、保存の目処が付くように、特に県への働きかけを活発に致したいと思っております。幸いなことに県当局は日吉台地下壕の保存運動に関心を持っており、4月14日の要請に対しても前向きの姿勢が感じられました。これからも行政当局や議会への働きかけが重要になって来るものと思われます。私たちの目的を達成させるためには、多くの人々の理解と支援が必要です。したがって、私たちの運動に1人でも多く、参加して頂き、支援して頂ける方を増やさなければなりません。

目的達成まで、今年度も宜しく御支援・御協力をお願い致します。

これで1992年度の運動方針案の説明を終わります。

1992年度予算案

(単位は円)

	1991年度決算	1992年度予算	備 考
収入の部			
会 費	480500	350000	1000円*350名
カンパ	50845	0	
利 息	0	0	
事業益	115840	0	
繰越金	410439	704204	
合 計	1057624	1054204	
支出の部			
会議費	5200	30000	各種会合費 事務用品、封筒等 会報、パンフレット等 会報、各種郵送代等 書籍・ビデオ等 講師・調査費等
事務費	47919	80000	
印刷費	72996	650000	
通信費	139264	160000	
資料費	0	20000	
謝 礼	54361	80000	
予備費	33680	34204	
合 計	353420	1054204	
差引残高 計	704204	0	

〔補足説明〕

会員数491名中、1991年度の会費納入者が378名(約77%)である。脱退・転居先不明など22名、2年間会費未納者31名なので、現在の実会員数は438名である。したがって、収入の部の会費収入については、

$1000\text{円} \times 438\text{名} \times 0.8 = 350000\text{円}$ とした。

支出の部で、予算の印刷費が決算より著しく多いのは、昨年できなかったパンフレットの発行の費用($220\text{円} \times 2500\text{部} = 55\text{万円}$)を計上したからである。謝礼が多いのは、事業活動を活発化するためである。

第4回 総会

アツピール

日吉台地下壕保存の会が結成されて、3年が経ちました。会が発足してからの世界情勢の変化は激しく、遂に昨年度はソ連が崩壊しました。これから先世界はどう変わるのか、不透明な時代にあると言えます。日本経済もバブルがはじけて景気後退の局面を迎えています。世界を見渡すと紛争の火種はあちこちでくすぶり続けています。大きな戦争にならないよう人類の英知を集めて、紛争の火種を消していかなければなりません。戦争を放棄した日本は、今こそ積極的に人もお金も出して、世界の平和に貢献すべきでしょう。

また、冷戦構造の陰で、我々日本人は、日中戦争や第二次世界大戦で、アジアの人々に対して大きな被害を与えたという反省を、充分やってきたとは言えません。冷戦構造が崩れて、アジアの人達に對

する戦後処理をきちんとしてこなかった付けが、今アジアの人々から突きつけられているのではないでしょうか。その意味で、私たち日本人は、今初めて加害者としての戦後が始まったとも言えます。

私たちは先の大戦の真実を知り、当時の日本の行為を厳しく問い直していかなければなりません。先の大戦の厳しい反省がなければ、日本の真の国際化もあり得ないでしょう。日吉台地下壕は、戦争の実相を学び、戦争と平和を学習できる貴重な場所と考えられます。

私たちは、ワイツゼッカーの「過去に目を閉ざすものは、現在に盲目となる」という言葉を噛みしめながら、このような貴重な遺産を、現在及び後世の人々のために残すべく、粘り強く運動を展開していくことを、第四回総会の名において宣言します。

一九九二年四月一八日

日吉台地下壕保存の会

一九九二年度保存の会
運営委員・会計監査

会長 鮫島 重俊

副会長 薄井 芳夫

幹事 田辺 昇

東郷 秀光

久我 俊二

谷 栄

小園 優子

茂呂 秀宏

谷藤 基夫

堀内 利文

宗田 千絵

日高しず子

亀岡 敦子

馬養 貞子

白鶴 邦子

蕪木陽青生

喜田美登里

橋本ミチ子

石田 誠吾

寺田 貞治

林 ちづ

中沢 正子

加賀谷欣之助

大西 章

森山 高行

会計監査

天野 喬子

顧問

秋本 謙三

佐藤 林平

永戸多喜雄

お願い

一九九一年度及び一九九二年度の会費未納の方は、至急お納め下さいますようお願い申し上げます。

年会費は一口一千円で、一口以上となっています。

恒欄集末後記

◆四月は新学期を迎え、また地下壕調査、市と県への地下壕保存の要請、総会の準備など、忙しい毎日でした。

◆私たちの運動は、まだまだ前途多難であり、多くの人々、ことに地域の人々の理解と協力なしには成功しません。

◆困難を克服しつつ地道に進むしかありません。いつまでも温かく御支援の程をお願い致します。